

1-【1】資料・情報の提供（貸出し・閲覧・予約・レファレンス）

令和5年度第1回オーテピア高知図書館サービス計画推進委員会



概要

- 一般図書は、国内年間出版点数の5割以上を収集、雑誌や新聞は、2,000タイトル以上の収集を目指します。
- 電子図書館のサービスは、コンテンツの充実や視聴覚資料やデータベース、デジタル化した資料などの電子媒体の資料の充実を図ります。
- ウェブ・サイトやSNS、チラシ配布、出前図書館のほか、動画やマンガなどの分かりやすいPR活動を実施します。

サービス指標

	R 4 年度 (R5. 3/31現在)	R 8 年度目標
リクエストの受付件数	3,877件	4,000件
電子図書館の閲覧回数(電子雑誌を含む)	28,834回	10万回

主な取組 (R4. 4/1~R5. 3/31)

- ①資料の収集・提供**
 - ・図書等の購入は、令和3年度と同水準で推移。雑誌は、目標の2,000タイトル以上を確保。
 - ※数値の詳細は「サービス指標及び主な実績値(資料1)」及び各サービスの進捗管理シートに掲載。
- ②貸出し・予約・リクエスト**
 - ・令和5年1月からマイナンバーカード及びスマートフォン(オーテピアアプリ)での貸出しを開始。**新規**
- ③展示**
 - ※各サービスの進捗管理シートに掲載。
- ④利用ガイド**
 - ※各サービスの進捗管理シートに掲載。
- ⑤レファレンス**
 - ・図書館の広報紙や行政向けメルマガ等に「調べもの案内」について具体例を掲載。調べもの案内サービスの利用を促進した。

成果と課題 (○：成果 ■：課題)

- ①資料の収集・提供**
 - 一般図書は、年間出版点数の概ね4割程度に達している。雑誌は、目標の2,000タイトル以上を達成。
 - 令和4年4月から新たに電子雑誌閲覧サービス(「Kono Libraries」本文の検索・音声読み上げが可能)を声と点字の図書館と共同で導入した。
 - GIGAスクール端末の活用と電子図書館の普及のため、高知県及び高知市教育委員会と連携し、所管する学校の教職員と生徒の計約32,000人が登録。高知市では全ての小・中学校分を一括で登録し、校長会で説明したことで利用が促進され、**2月以降、電子図書館の利用が大幅に伸びた。**
 - 電子書籍については、期限付きのタイトルの増加により、一定のタイトル数を確保するには、資料予算の増額が必要。
 - リサイクル図書の配布
 - 市：NPO法人に絵本、刑務所に一般図書を配布。
 - 県：役割を終えた選定支援用児童図書を、児童養護施設等に配布。海外の高知県人会への提供について検討するための情報収集に着手。
 - 年間出版点数の5割以上収集の目標達成のためには、資料費の継続的な確保が必要。
 - 県：除籍後の資料等の有効活用のため、支援用児童図書の配布先の選定が必要。
- ②貸出し・予約・リクエスト**
 - **マイナンバーカードやスマートフォン(オーテピアアプリ)での貸出しを可能としたこと**で、利用者の利便性が向上。分館室の図書利用者からも高評価を得た。
- ③展示**
 - ※各サービスの進捗管理シートに掲載。
- ④利用ガイド**
 - ※各サービスの進捗管理シートに掲載。
- ⑤レファレンス**
 - レファレンス件数は、目標(31,000件)の7割程度にとどまった。所蔵レファレンスの少なさが原因。事項レファレンスは微増。概ね県民・市民の課題解決に貢献できている。

今後の取組

- ① 多様な資料の収集と提供を充実させる。
 - ・電子図書館は、引き続き利用可能なタイトルを充実させるとともに、PRを強化する。
 - ・**県内の教育委員会等に対して、学校の教職員や児童・生徒の電子図書館への一括登録を働きかける。**
 - ・**国の交付金を活用し、新たに閲覧型電子書籍サービス「KinoDen」を導入し、7/23から運用を開始する。**
- ② マイナンバーカードやスマートフォン(オーテピアアプリ)に対応するセルフ貸出機の拡充を図る(8月予定)。
- ③ ※各サービスの進捗管理シートに掲載。
- ④ ※各サービスの進捗管理シートに掲載。
- ⑤ 調べもの案内サービスについてPRを継続する。

特記事項など

1-【2】情報リテラシーの向上支援

概要 ○実際に資料や情報を参照することができる図書館のメリットと司書の専門性を生かし、情報社会において求められる情報リテラシーの習得や向上を支援します。

サービス指標	R4年度 (R5.3/31現在)	R8年度目標
	パスファインダーの提供数	17種
データベースの利用件数	2,963件	5,000件

主な取組 (R4.4/1~R5.3/31)

- ①図書館活用講座の実施
 - ・5月に情報リテラシー向上支援を目的とする委員会を設置し、部署横断的な取組について検討を開始した。**新規**
 - ・11月と2月にオーテピアアプリの使い方を説明する初級講座を行った。また、1月にOPACでの検索方法を説明する中級講座、3月に情報の評価能力について学ぶ上級講座を行った。**新規**
 - ・データベース講習会にて朝日新聞クロスサーチやD1-Law等をPR。
- ②利用ガイド（パスファインダー、ガイドブック等）の作成・提供
 - ・各サービス担当が、ひきこもりなど、窓口で相談しにくい課題に関するパスファインダーを新たに2種作成するとともに、4種を改訂。（パスファインダーは計17種を提供中）
 - ・「図書館フル活用講座」と題した、情報資源へのアプローチ能力を高める動画を制作。**新規**
例：「OPACで本を検索」
「本のある場所を探す」
「ブックリストを活用する」
- ③連携事業等での情報リテラシー向上支援の実施
 - ・各部署が、学校等からの図書館見学、職場体験等の際に、情報リテラシーに係わる説明を行っているほか、連携事業や出前図書館等の際に、図書館の活用方法を説明している。
例：ジョブカフェこうち主催の「親子みらい×ワーク研究室」における図書館PR

成果と課題 (○：成果 ■：課題)

- ①図書館活用講座の実施
 - 初級講座（11月、2月）では、アプリを自分では使い始められない方、機能を知らない方へのアプリの導入支援ができた。
 - 必要な情報を探すための方法や、情報の信頼性を確かめる方法を習得する講座の実施により、情報リテラシー向上の一助となった。
 - 初級講座は情報リテラシー向上のために重要だが、細かなサポートが必要なことから、少人数向けに対面の講座で行うことが望ましく、定員を絞った開催となる。多くの方に習得を促すことが課題。
- ②利用ガイド（パスファインダー、ガイドブック等）の作成・提供
 - R8年度目標（65種）に向け、より一層、提供数を増やす必要がある。
 - 動画は、不特定多数の方への情報リテラシー向上支援として有効なツールであるが、館内での撮影が閉館中に限られるため、年間数本の制作が限度。
- ③連携事業等での情報リテラシー向上支援の実施
 - 図書館見学、職場体験等で、情報資源へのアプローチやハンドリング能力、情報の評価能力について学ぶ機会を提供できている。
 - 各サービスの連携事業や出前図書館に加え、オーテピアの貸室等で行われるイベント等においても、図書館の活用方法についてのPRができている。
 - 連携事業等での図書館活用の説明時間は限られており、データベースの利用方法等の詳しい情報資源の紹介や、情報の評価能力等について説明できる機会が少ない。



アプリの使い方を説明する初級講座



図書館フル活用講座動画を年間8本制作

今後の取組

- ・情報リテラシー向上支援プログラムの検討に役立つ体系表を作成し、これに基づいて体系的な情報リテラシー向上支援を実施する。
- ・グループ室を使用した少人数による初級講座の定期的な開催について検討していく。
- ①以下の講座を実施予定。
 - ・初級講座（5/28、11/25）
 - ・中級講座（2/10）
 - ・上級講座（9/30）
 - ・その他、医中誌等のデータベース活用講座を行う。
- ②・サービス指標の目標値に近づくよう、引き続き、各サービス担当に、内容の充実も含めた働きかけを行う。
- ・R4年度に制作した動画を公開するとともに、新たな動画を制作する。
- ③・各担当部署において、引き続き連携事業の中で図書館活用講座等を行い、利用者の情報リテラシー向上に努める。

特記事項など

2-【1】ビジネス支援サービス

概要

- 経済や経営、就業、起業、転職等、課題解決に役立つ6～7万冊の書籍、専門誌、データベース等のビジネスに関連する資料・情報を提供します。
- 気軽に相談できるビジネス支援デスクを設置し、担当司書が、情報収集や調べものをサポートします。
- ビジネスに役立つ講座や相談会等を専門機関等と連携して開催するとともに、図書館活用講座等を実施します。

サービス指標	R4年度 (R5.3/31現在)	R8年度目標
ビジネス・農業・産業支援分野でのレファレンス件数	1,708件	2,400件

主な取組 (R4.4/1～R5.3/31)

- ① 図書の収集・提供**
 - ・ニーズの高い資料の購入、レファレンス等を契機とする未所蔵資料の収集などを実施。
 - ・貸出しが少ない雑誌・新聞の展示を実施。その他、関係機関と連携した展示を実施。
 - ・高知銀行やジョブカフェへの団体貸出を開始。
- ② ブックリストの作成・提供**
 - ・「就職する・転職する」ほか4種類作成。
- ③ レファレンス・サービス**
 - ・一般利用者や行政関係者からのレファレンスに回答。
 - ・図書館活用講座や連携イベント等でPR。
- ④ ビジネス支援サービス活用講座の実施**
 - ・動画「仕事に使える！図書館活用術」をYouTubeで公開。
 - ・土佐MBA専科「図書館をビジネスに活かす」のほか、ICT技術セミナーや放送大学講演会などの共催事業において活用講座を実施。
- ⑤ 他機関と連携したセミナー・相談会等の事業の実施**
 - 以下は新規事業の例。
 - ・まちかど就農相談（県農業担い手支援課）
 - ・農業関連イベント
 - ・「高校生ビジネスプラン・グランプリプラン作成講座 **新規**
 - ・デジタルデザインコンテスト **新規**
 - ・税関展

成果と課題 (○：成果 ■：課題)

- ① 図書の収集・提供**
 - 認知度の低い雑誌・新聞の展示により、展示前の貸出累計が2回以下の雑誌については、展示期間中の**貸出が100%を超え、認知度の向上や利用促進につながった。**
 - 団体の貸出を通して、連携強化や専門書の活用、貸出先の職場での課題解決を促進した。
 - 専門的な新聞・雑誌・図書の利用促進に向けた効果的なPRが必要。
- ② ブックリストの作成・提供**
 - 県庁・市役所の組織・機関と連携することで、より利用者ニーズに沿ったテーマのブックリストを作成・提供できた。（連携先：高知県労働委員会事務局など）
 - 既存のブックリストの内容の更新が必要。
- ③ レファレンス・サービス**
 - 「ものづくり総合技術展」などでのPRがレファレンスにつながった。また、事業の参考に、リピーターとしてレファレンスを利用される方も多く、課題解決に貢献できた。
 - 利用者から「レファレンス・サービスを今まで知らなかった」「申込方法が分からなかった」という意見があり、**サービスのさらなる周知が必要。**
- ④ ビジネス支援サービス活用講座の実施**
 - 動画の公開により、常時、**基本的な図書館の活用方法が学べる環境を構築。**土佐MBA専科講座を契機にデータベースの利用者も増えている。
- ⑤ 他機関と連携したセミナー・相談会等の事業の実施**
 - 各種相談会を開催し、**情報を必要とする利用者と相談窓口をつなぐことができた。**
 - 「高校生ビジネスプラン・グランプリ プラン作成講座」を実施し、**図書館の活用方法について若年層に周知。受講者を含むチームがベスト100に選出された。**
 - デジタルデザインコンテストの開催により、作品の制作における図書館の活用を促進し、**デジタル人材育成や受賞者の進路開拓にもつながった。**
 - 定例開催の事業は、**マンネリ化しないような工夫が必要。**



デジタルデザインコンテスト表彰式の様子

今後の取組

- ① 利用者ニーズの把握とPR方法について検討。分館・分室での資料展示を検討。
- ② ニーズに応じたブックリストの作成及び改訂。
- ③ レファレンス・サービスの一層の周知。（例：関連団体へのPR、活用事例まんがの配布）
- ④ 土佐MBA専科「図書館をビジネスに活かす」を実施予定。（R6.2/2）
- ⑤ 定例事業での図書展示等は、主催者と相談しながら参加者のニーズに合わせた本を展示する。
 - ・まちかど就農相談（毎月）
 - ・若者サポートステーション進路相談会（毎月）
 - ・5/6「中高生に知ってほしい！スマホで操る高知の農業」イベント

主な連携先

こうち若者サポートステーション、YAMAKIN株式会社、日本政策金融公庫、県農業担い手支援課、県計画推進課、高知県労働委員会事務局、放送大学高知学習センター、高知銀行

特記事項など

- ・高知県労働委員会事務局と連携し、図書館活用事例まんがNo.4を作成した。
- ・放送大学の教材を配架
- ・R6年度にデジタルデザインコンテストを開催予定（隔年）

2-【2】健康・安心・防災情報サービス

概要

- 健康・福祉・防災等の分野の課題解決につながる資料・情報を提供・発信するとともに、図書館の活用方法を積極的に周知します。
- 専門機関等と連携してイベントを開催したり、チラシ・パンフレットの配布や企画展示を行うことにより、利用者に情報を提供します。

サービス指標

健康・安心・防災情報分野でのレファレンス件数

R 4年度 (R5. 3/31現在)	R 8年度目標(見直し前)
1,280件	2,000件(1,600件)

主な取組 (R4. 4/1~R5. 3/31)

① 図書の収集・提供

- ・専門機関と連携して、発達障害、燃え尽き、難病、防犯等をテーマに図書展示を実施。
- ・健康安心防災分野の資料活用を分館・分室に働きかけ、分館・分室にて展示を実施。
- ・出前図書館を実施(29件)。

② 他機関と連携したセミナー・相談会等の共催事業の実施

- ・高知大学医学部等の専門機関と連携し「がん相談会」などを実施。
- ・**7月~「ひきこもりピア相談会」定例開催。新規**
- ・市消防団、高知リハビリテーション専門職大学、高知医療センターなどとイベントを実施。
- ・市立中央公民館事業「いきいきセカンド☆ライフ講座」にて活用講座を実施(春/秋)。

③ アウトリーチ・サービスの実施

- ・ヤングケアラーを担当する県子ども家庭課を訪問し、互いの取組について情報交換を行った。
- ・**来館が困難な県民・市民の音読活動をサポートするため、「いきいき音読倶楽部」の動画を公開、広報物を作成。新規**
- ・**動画「がんについて調べる」を公開。新規**

④ 広報支援

- ・**市地域共生社会推進課、市社会福祉協議会等と連携し、「地域共生社会推進イベント」を実施。新規**
- ・関係機関と連携し、館内での広報物の配布やパネル展、図書展示、**生理用品の配布、ゴールドリボン(小児がんの支援啓発)の展示などを実施。**

成果と課題 (○：成果 ■：課題)

① 図書の収集・提供

- 期間展示用の展示架を設置し、**タイムリーな展示ができるようになった。**
- **分館・分室での資料展示により、地域の利用者がオーテピアの資料を手に入る機会を増やし、幅広く情報提供できた。**月400冊を超える利用があるなど好評。
- 市高齢者支援課から認知症サポーター養成講座での「認知症」ブックリストの配布希望、心の教育センターから研修用ブックリスト作成依頼があり、対応した。
- パスファインダーの種類を増やし、手に取りやすい場所に置くなど、利用促進のための工夫が必要。

② 他機関と連携したセミナー・相談会等の共催事業の実施

- 各種相談会の開催により、**支援を必要とする利用者と相談窓口をつなぐことができた。**
- 共催イベント実施時に説明時間を設け、図書館の活用方法を周知することができた。

③ アウトリーチ・サービスの実施

- 関係機関と互いの取組を共有でき、**データベースの活用や連携展示等の取組につながった。**
- バリアフリーサービスやティーンズ・サービスなど他のサービスとの情報共有が必要。
- 「いきいき音読倶楽部」の動画は、利用促進のための幅広い周知が必要。



いきいき音読倶楽部 動画

④ 広報支援

- **県や市、専門機関の取組に関する広報ができた。**
- 専門機関が展示資料を選定することで、利用者に**信頼性の高い情報が提供**できた。



3/12 高知市消防団との共催イベント



専門学校生向けの図書館活用講座



健康・安心・防災関係資料の分館・分室での展示の様子

今後の取組

- ①・ブックリスト等により、県民・市民、専門機関、行政の各所属及び機関に対する図書館活用の周知を継続。
- ・収集した資料の活用について、継続的に利用者のニーズを把握。
- ②・引き続き、専門機関と連携して事業を実施。
- ・4/7、4/19専門学校生向けの図書館活用講座。
- ・6/4、9/3、12/3、3/3「ひきこもりピア相談会」。
- ・6/21、6/28看護学科生向けのデータベース講座(医中誌web)。
- ・7/1、7/2「第38回医学情報サービス研究大会」。
- ・8/13「ほおっちょけん相談窓口」イベント。
- ③・「いきいき音読倶楽部」の動画利用促進のため、バリアフリーサービス担当等と情報共有の上、協力して広報を実施。
- ④・広報支援について、関係機関の担当者と協議。(高知県社会福祉協議会、高知県精神保健福祉センター)

主な連携先

県子ども家庭課、県地域福祉政策課、市地域共生社会推進課、市健康増進課、高知市社会福祉協議会、土佐リハビリテーションカレッジ、高知医療センター

特記事項など

- ・レファレンス事例マンガNo.2「発達障害」を作成。不特定多数の方に周知。
- ・学生向けの活用講座・見学対応の実施。
- ・**地域の生活支援情報検索サイト「Licoネット」(市地域共生社会推進課)に登録。新規**

2-【3】行政支援サービス

概要

- 高知県庁と高知市役所の職員が、行政運営や政策立案を行う際の情報収集、調べものを図書館司書がサポートします。
- 数多くの方が来館する強みを生かし、各組織・機関と連携した講座・イベントの開催やパンフレット等の配布を行い、行政の政策・施策の推進を支援します。

サービス指標	R 4年度 (R5. 3/31現在)	R 8年度目標
図書館と連携した課題解決支援のための図書館サービス説明等の実施	18回	56回

主な取組 (R4. 4/1～R5. 3/31)

※個別サービスでの取組は各サービスのシートに掲載

①各組織・機関への貸出し

- ・行政各課向け団体貸出の運用を整理し、メルマガ等で周知。
- ・行政各課の利用団体数及び貸出数を集計するための仕組みを構築。
- ・高知市立学校教職員向け（高校除く）の団体貸出しの運用を整理。

②図書館活用講座等の実施

- ・こうち人づくり広域連合及び県人事課主催新採研修に活用講座動画を提供。
- ・「政策研究共同研修」で活用講座を実施。
- ・「D1-Law.comデータベース講習会」を実施。

③図書館活用事例の広報

- ・活用事例まんがNo. 4を作成。
- ・レファレンスや広報協力などに関する図書館活用事例をメルマガ等で周知。メルマガ1回分の文量や配信頻度の見直しを行い、より伝わりやすいように工夫。

④各組織・機関と連携した取組の実施

- ・ビジネス支援、健康・安心・防災情報、多文化の各サービスにおいて、関係機関と連携して定期相談会や体験会、連携展示等を実施。
- ・**地域の生活支援情報検索サイト(市地域共生社会推進課)Licoネットに登録。** **新規**

成果と課題 (○：成果 ■：課題)

①各組織・機関への貸出し

- 各課からの**問い合わせが増加し、利用の促進**につながった。また、各課の貸出実績を参考値として、利用の多い課の傾向が把握できた。
- 高知市立学校教職員向け（高校除く）の団体貸出の利用方法を周知する必要がある。

②図書館活用講座等の実施

- ・研修後のアンケートで、「レファレンス・サービスを知らなかったが、**今後は業務に活用したい**」という声が多かった。
- ・各サービスでの取組により、図書館を行政の業務に活用するための情報提供及び活用しやすい環境整備ができた。

③図書館活用事例の広報

- 活用事例まんがNo. 2・3はマスコミに取り上げられ、**図書館の活用事例をより広く周知することができた**。メルマガを見た行政職員からレファレンスの新規申し込みがあり、データベースを使ってみたいとの声も聞かれるなど、**図書館が行政の業務に役立つことをPRできた。**

④各組織・機関と連携した取組の実施

- 連携により各組織・機関との相互理解が深まったことで、ニーズの高い情報について正確な情報提供ができるようになり、課題解決に貢献できた。
- ・今後も継続的な取組ができるよう、各組織・機関との連携を深める必要がある。
- ・定期相談会など、連携事業のさらなるPRが必要。



「高知県外国人材確保・活躍ガイドブック」より



新採研修への提供動画



県農業担い手支援課と連携した親子で農業ふれあい体験の様子（ビジネス支援）

今後の取組

① ・利用の多い部署については、ニーズの高い資料を把握し、選書等に活かす。利用の少ない部署にはPRを継続的に実施する。

- ・**R5. 5月～高知市立学校教職員向け（高校除く）の団体貸出を開始。** **新規**

② ・イベントの実施や展示等の取組を通じて、関係組織や機関との連携を深めていく。

主な連携先

県：子ども家庭課、人事課、農業担い手支援課、新規就農相談センター、計画推進課、雇用労働政策課、精神保健福祉センター、文化国際課、教育センター

市：健康増進課、新エネルギー・環境政策課、地域共生社会推進課、文化振興課、観光企画課、地域活性推進課、総務課

その他：こうち人づくり広域連合

特記事項など

- ・各課の職員が行政端末からレファレンス依頼をしやすい仕組みを検討中。
- ・こうち人づくり広域連合の新採研修に提供した活用講座動画を令和5年中に公開予定。

2-【4】高知県関係資料の収集・保存・提供

概要

- 高知県に關係する資料を網羅的に収集し、各方面の利用に供するとともに、資料を生かし、県民・市民、観光客、移住希望者等に向けて情報発信します。
- 貴重資料をはじめとするニーズの高い資料のデジタル化を進め、ウェブ・サイトで公開します。

サービス指標

高知県関連のレファレンス件数

R 4年度 (R5. 3/31現在)	R 8年度目標
2,930件 (事項：991、所蔵：1939)	4,400件

主な取組 (R4. 4/1～R5. 3/31)

- ①高知県にとって必要な資料の収集**
 - ・「こうちミュージアムネットワーク」地域資料部会と連携して、県内資料の保存状況等の情報を共有。
- ②図書以外の資料の収集**
 - ・高知資料コーナーにおいて、県内市町村の紹介展示のため、各市町村の観光パンフレット等の寄贈を依頼。
 - ・県や市町村の行政機関に、提供可能な行政文書等の資料の寄贈を依頼。
 - ・デジタル情報の収集と保存のほか、先行事例等の情報を収集。
- ③貴重資料等のデジタル化**
 - ・県立図書館が所蔵する「松野尾章行資料」「長瀬家資料」「森家旧蔵資料」、昭和15～19年の「高知県報」など、137点の資料をデジタル化した。
 - ・市民図書館が所蔵する『燧袋』25点、中城文庫237件、貴重書19件、『高知県商工家案内 全』のデジタル撮影を行った。
 - ・「田岡典夫文庫」「川村源七氏関係資料」「細川義昌関係資料」の目録を作成し公開。
 - ・ニーズの高い「武吉孝夫写真文庫」(仮)等の未整理資料や新規に受け入れた資料の目録をデータ化した。
- ④デジタル化された貴重資料の提供**
 - ・収蔵品検索データベースとNDLサーチとの連携に必要な作業を行った。
 - ・「高知県立図書館デジタル・ギャラリー」で「清岡義道写真文庫」と「田辺寿男写真庫」の写真167点を公開した。
 - ・「収蔵品検索データベース」で『高知県商工家案内 全』など1,172点の画像を公開した。

成果と課題 (○：成果 ■：課題)

- ①高知県にとって必要な資料の収集**
 - 県民・市民から提供のあった貴重な資料を「こうちミュージアムネットワーク」を通じて保存し、受入先を検討することで資料の散逸を防いだ。
 - 県内の文化施設などは、収蔵スペースに余裕がないことやマンパワーが十分でないことなどから、貴重な資料の受入れには限界がある。
- ②図書以外の資料の収集**
 - 県内市町村の紹介展示を行うことで、市町村の情報を発信するとともに、各市町村の資料の収集が進んだ。
 - 県内市町村では、デジタル情報の収集等の検討が進んでいない。
- ③貴重資料等のデジタル化**
 - 収蔵品検索データベースで公開できた目録は、田岡典夫文庫(5,604点)、細川義昌関係資料(14点)、川村源七氏関係資料(772点)ウェブ・サイトで検索できる資料等の範囲が広がった。
 - デジタル化した資料の公開に向けて、メタ・データの整備等を進める必要がある。
 - 一部の貴重資料の撮影や整理を進めるための環境が整っていない。
 - 写真の画像公開は、肖像権などの法的な問題について、事前の整理と確認作業が必要。
 - 未整理資料のうち、寄贈や寄託の経緯が不明な資料は、関係者への連絡が困難。
- ④デジタル化された貴重資料の提供**
 - 収蔵品検索データベースとNDLサーチを連携させるための設計書は完成。
 - 図書館側の作業スケジュールやNDLサーチ側のシステムリニューアルなどもあり、R4年度中の連携開始には至らなかった。
 - くずし字勉強会における『順水日記巻之一(卑家月書外之部一)』の解読が終わり、翻刻文が完成した。
 - これまで存在を知られていなかった『高知県商工家案内 全』の資料は、レファレンス等での活用が見込める。また、検索に供するために掲載されている商工業者の一覧も作成した。



県内市町村紹介展示

今後の取組

- ① 「こうちミュージアムネットワーク」と連携した小規模館や個人宅での原本保存の支援。
- ・ 県内の文化施設の収蔵スペース確保について、デジタル画像等で情報のみ収集するなど、応急対策を検討する。
- ② 市町村の紹介展示を継続的に実施していく。
- ・ デジタル情報の収集方法については、先行事例の情報の収集・分析、県立公文書館との連携協議など、具体的な作業に入る。
- ③ デジタル化された「松野尾章行関係資料」の目録整備と公開。
- ・ 「田岡典夫文庫」の資料をデジタル化する。
- ・ 未整理資料等の目録データの作成→ウェブ公開に向けて作業を進める。
- ・ 若尾家資料(若尾文庫関連)の受入れ・整理。
- ④ 収蔵品検索データベースとNDLサーチの連携は、R5年度中の公開を目指す。
- ・ 完成した『順水日記巻之一』翻刻文を「高知県立図書館デジタル・ギャラリー」で公開する。

主な連携先

こうちミュージアムネットワーク

特記事項など

- 県史編さん事業への協力。
- NHK朝の連続テレビ小説(R5年前期)「らんまん」放送関連の協力展示

3-【1】児童サービス

概要

- 子どもたちの心や成長に寄り添い、豊かな読書経験を培う手助けをするとともに、生涯学習の基礎となる情報リテラシーの向上を図ります。
- 子育てに関わる大人や、子どもの読書活動を支える大人に対する支援を行います。

サービス指標

こどもカウンターの
レファレンス件数

R4年度 (R5.3/31現在)	R8年度目標
5,182件	7,900件

主な取組 (R4.4/1~R5.3/31)

- ①情報リテラシーの学習機会の提供**
 - ・図書館見学の説明資料では、本の分類部分などを子どもに理解しやすい内容に改訂。
 - ・ジョブカフェこうちとの共催イベント「知って！調べて！描こう★私の未来地図」で、仕事に関する調べものに役立つパスファインダーを作成・配布。
- ②子どもと本を結びつける行事の実施**
 - ・図書館登録ボランティアと連携したものも含めたおはなし会を定期的に開催。
 - ・「読書感想文課題図書」や「夏休みの宿題のヒントとなる図書」などの展示を実施し、こども向け案内地図を作成・配布。
 - ・高知市学校教育課と連携した「高知市学校図書館支援員研修会」で、当館のサービスについて説明。
 - ・R5.1月にJBBY「世界の子どもの本展」と関連講演会を開催（講師：さくまゆみこ氏）。
- ③保護者やボランティアなどへの読み聞かせなどの普及**
 - ・「ストーリーテリング勉強会」などを定期的に開催。
 - ・「大人のためのおはなし会」を開催。
 - ・高知学園短期大学の学生ボランティアと連携。
 - ・高知市子ども育成課主管の親子絵本ふれあい事業の本の配布場所として協力を継続。
 - ・ボランティア団体と共催して、9月~12月に「楽しみながら学ぶおはなしの連続講座」を実施。
- ④子育て支援に関連する資料や情報の提供**
 - ・「子育て応援コーナー」に関連雑誌を配置、コーナーの拡充作業中。
 - ・連携先と講演会の共催や展示を実施。

成果と課題 (○：成果 ■：課題)

- ①情報リテラシーの学習機会の提供**
 - 見学に来た子どもたちから分かりやすいと好評を得た。
 - 子どもたちが将来を考えるために役立つ情報リテラシー向上の機会を提供できた。
 - 図書館見学に来られない子どもたちが、自宅や学校からでも図書館の使い方を学べるような機会を設ける必要がある。
- ②子どもと本を結びつける行事の実施**
 - おはなし会に参加することで、本やおはなしの世界に親しみをもつようになった親子が多く、継続的な来館につながっている。
 - チラシの内容の見直しに加え、チケットの配布についてカウンターでの手渡しから、会場前で自由に取ってもらうように変更するなどの工夫の結果、おはなし会の参加者が増加した。
 - 展示や案内地図の配布により、多様な資料との出会いを促進できた。
 - 学校図書館支援員対象の研修が団体貸出や選定支援コーナーの利用につながった。
 - 学校図書館支援員だけでなく、図書担当の教員にも働きかけを行う必要がある。
- ③保護者やボランティアなどへの読み聞かせなどの普及**
 - 学生ボランティアに、おはなし会の開催、本の修理、壁面飾りを作成をしてもらうことで、図書館の児童サービスに対する理解が深まった。
 - 絵本の配布場所であることが来館のきっかけとなり、親子が絵本を使ってコミュニケーションをとる機会や、その後の図書館利用につながった。
 - ストーリーテリングに関する大人向け勉強会や講座、講演会を開催し、参加者の技術の研鑽に寄与した。
- ④子育て支援に関連する資料や情報の提供**
 - 館内に散在していた子育て関係の雑誌をまとめて配置し、利用者（特に小さな子ども連れや妊婦）の利便性が向上した。
 - 「子育て応援コーナー」の場所の拡充が未完了。



図書館見学用で使用しているスライド



学生ボランティアによるおはなし会の様子



子育て応援コーナーの雑誌書架

今後の取組

- ①・図書館見学に来られない学校に対して、オンラインで図書館の使い方を学べる仕組みを検討する。
- ②・定例の行事を継続して行う。
・学校に対して、公共図書館の活用を促す取組を検討する。
- ③・高知学園短期大学の学生ボランティア活動を継続して行う。
- ④・子育て応援コーナーの拡充を完了させる。
- ⑤・R5.5月~行政支援サービスの一環として、高知市立学校教職員向け（高校除く）の団体貸出を開始。新規

主な連携先

高知こどもの図書館、高知市子ども育成課、高知県心の教育センター、高知市市民活動サポートセンター、ジョブカフェこうち、高知学園短期大学

特記事項など

- ・対象年齢のこどもが利用しやすいように「ことばと国際交流コーナー」の外国語の児童書（絵本以外）をこどもコーナーに移動した。新規
- ・県内高校生作製の手袋シアターが寄贈され、新たに配架した。新規
- ・「高知県立文学館」「高知まんがBASE」「高知こどもの図書館」のコーナーを継続して設置し、周辺の文化施設の回遊に寄与。

3-【2】ティーンズ・サービス

概要
 ○ティーンズ世代の多様な興味・関心に応える本や学習内容を深めることができる本などを提供します。
 ○イベント・企画展示の実施やPR活動などにより、図書館利用のきっかけづくりと読書機会の創出に取り組みます。

サービス指標 ティーンズからの投稿件数	R4年度 (R5.3/31現在)	R8年度目標
	39件	50件

主な取組 (R4.4/1~R5.3/31)

- ①ティーンズを主体とした読書普及活動の実施
 - ・「オーテピアティーンズ部」の自主企画としてリレー小説を実施した。 **新規**
 - ・全国高等学校ビブリオバトル2022高知県大会を開催した。
 - ・「あつまれ ティーンズ部」を企画した。
- ②情報リテラシーの学習機会の提供
 - ・提供中のパスファインダーの内容を改訂した。
 - ・山田高校の生徒に図書館活用講座を行った。内容は講座のほか、館内見学ツアーの実施、参考図書の提供など。
 - ・「高校生ビジネスプラン・グランプリ」プラン作成講座を開催した。 **新規**
- ③ 他機関と連携した取組の実施
 - ・県主催の教育支援センター連絡協議会で不登校支援についてPRを行った。
 - ・高知県心の教育センターのブロック別研修に講師として参加した。
 - ・県地域福祉政策課を訪問し、ヤングケアラー支援において活用できる図書館サービスを説明した。
 - ・高知市教育支援センターとの連携展示『クリスマスPOPツリー』の催しを開催し、不登校生徒の図書館の利用を促進した。
- ④ ブログ、SNSの活用
 - ・ティーンズ部員から投稿された本の紹介文をFacebook、Instagramに掲載した。
 - ・ティーンズコーナーの展示をInstagramに掲載した。
 - ・当館ウェブ・サイトに、ティーンズ部のページを新設した。 **新規**

成果と課題 (○：成果 ■：課題)

- ①ティーンズを主体とした読書普及活動の実施
 - リレー小説企画の案内をきっかけに、新たに6名が入部した。リレー小説参加者からは、「やりがいがあった」「入ってよかった」との声が寄せられた。
 - ・ビブリオバトルでは、高校生から紹介された本の展示を実施し、イベント参加者と展示を見た来館者に読書の楽しさを伝えることができた。
 - 「あつまれ ティーンズ部」は2回企画したが、参加希望者がいなかった。普段、メンバー同士の交流がないことが原因の1つと考えられる。メンバー同士でやり取りできるような新たな情報共有ツール運用の検討が必要。
- ②情報リテラシーの学習機会の提供
 - 山田高校の生徒への図書館活用講座は、図書館の利用促進につながった。参考図書を選んでもらう時間と館内見学ツアーが特に好評で、R5年度も実施予定。
 - ・「高校生ビジネスプラン・グランプリ プラン作成講座」は、ビジネスプランの作り方を学ぶとともに、高校生の将来に役立ち、図書館の利用につながる内容となった。



山田高校の生徒への図書館活用講座



高校生ビジネスプラン・グランプリ プラン作成講座



ティーンズ通信

- ③他機関と連携した取組の実施
 - 教育支援センター連絡協議会でのPRがきっかけとなり、高知県心の教育センターのブロック別研修で図書館のサービスの説明ができた。現場で必要とされている資料の把握もできた。図書館見学の問い合わせが2件あった。
 - ・訪問によりつながりができた県子ども家庭課と協力し、ヤングケアラーについてティーンズ通信に掲載。ティーンズ世代の認知度を向上させることができた。
 - 多様な事情を抱えるティーンズに、図書館に親しみを感じてもらう工夫が必要。
- ④ブログ、SNSの活用
 - ティーンズ部員やティーンズ世代の利用者からの投稿を増やす工夫が必要。

今後の取組

- ① 第3回リレー小説を実施予定。
 - ・ティーンズ部の新たな連絡手段を検討する。
 - ・11月に高知国際高校、高知中央高校と連携展示を実施予定。
- ② 8月に山田高校生徒への図書館活用講座を実施予定。
 - ・高校訪問などの機会に、教職員や生徒向けの図書館活用講座についてPRする。
- ③ 令和5年度第1回教育支援センター連絡協議会(5/31)で情報提供を実施。
 - ・ヤングケアラーの認知度を上げるために、関係機関と連携し、展示や出前図書館等の実施を検討する。また、ヤングケアラーに図書館サービスを届ける方法について、関係機関に相談する。
- ④ 職場体験学習等で来館するティーンズにも寄稿を呼び掛けるなどの方法を検討する。

主な連携先

高知県心の教育センター、県子ども家庭課

特記事項など

- ・支援協力担当、館長の高校訪問(8校)に同行し、サービスの説明を行った。

3-【3】多文化サービス

概要

- 日本語を学習するための資料のほか、地域で生活するためのさまざまな情報や知識を、外国語やさしい日本語で提供します。
- 異文化を知るきっかけや、多様化する高知県在住の外国人の生活に役立つ情報を提供します。

サービス指標	R4年度 (R5.3/31現在)	R8年度目標
	ブックリストやパスファインダーの提供数	21種

主な取組 (R4.4/1~R5.3/31)

- ①資料の収集・提供**
 - ・関係機関を通じて、日本語習得のための資料活用方法についてチラシを配布、出前図書館(県文化国際課主催講座「三国志で中国を知ろう」等)を行い、資料をPRした。
 - ・「ことばで旅する世界の国々」「一度は読んでほしいオーテピア高知図書館3階雑誌展」「高知県の国際交流」の展示。
- ②情報活用のサポート**
 - ・ブックリスト作成(6件)改訂(1件)、パスファインダー改訂(3件)。
 - ・在留外国人向け図書館活用講座や館内ツアーを実施。(高知県国際交流協会、龍馬デザイン・ビューティ専門学校、明德義塾高等学校、高知県立大学)。
 - ・外国語児童書の配架を見直した。
- ③他機関等との連携**
 - ・「高知県外国人材確保・活躍戦略」(以下、「戦略」)に基づき、サービスを提供。**新規**
 - ・市総務課国際平和担当と姉妹都市スラバヤ市に関する連携図書展示を実施。
 - ・国際交流員のおすすめ本を継続して展示。
 - ・「国際ふれあい広場2022」に出展。
 - ・「グローバルキャリアフェアin高知」参加。
- ④各種催しなどの実施**
 - ・新規に多文化理解講座「英語の音読教室」「世界の本の読書会」「トランプで楽しく多文化シミュレーション」を実施。**新規**
 - ・子どもを対象に「HELLO WORLD 外国語のおはなし会」「English Nook」を継続して実施。

成果と課題 (○：成果 ■：課題)

- ①資料の収集・提供**
 - 関係機関からレファレンスを受ける、主催事業で図書館資料を積極的に活用いただくなど、PRの効果が少しずつ現れてきている。
 - 外国語資料、特にベトナム語・インドネシア語は量が不足しており、積極的な収集が必要。また、支援者や雇用者が活用できる資料も充実させていく必要がある。
- ②情報活用のサポート**
 - 延べ100名の日本語学習中の在留外国人に向けて、資料のPRや活用講座をしたことで、利用登録や貸出しなど図書館の利用につながった。
 - 「ことばと国際交流コーナー」の外国語の児童書をこどもコーナーに移動したことで、利用者がより手に取りやすくなった。
 - ウェブ・サイトやブックリスト、パスファインダーなどで所蔵資料や活用方法をPRしているが、さらに利用しやすいコーナーづくりの検討が必要である。
- ③他機関等との連携**
 - 「戦略」への参画により、図書館サービスの周知を図るとともに、関係機関との協力体制が構築できた。
 - 在留外国人向け図書館サービスの**認知度が低くPRが必要。**
 - 多文化サービスを提供する市町村図書館の増加とともに、日本語学習に役立つセット資料の需要も増加しているため、拡充が必要。
- ④各種催しなどの実施**
 - テーマや形式を変えて実施することで、参加者の幅を広げることができた。「トランプで楽しく多文化シミュレーション」には13名が参加。在留外国人と地域住民の交流の場にもなり、双方の多文化共生への理解を深めるきっかけとなった。
 - 情報資源を提供する場であることはもとより、多文化交流の場としても図書館が有効である点について、効果的なPRが求められる。今後、在留外国人と地域住民がお互いを理解できるような講座やイベント等に対する**ニーズの把握が必要である。**
 - 実施の際には、より多くの外国人にイベント情報が届くよう広報の工夫が必要。



在留外国人向け図書館活用講座 (オンライン)



多文化理解講座 ~トランプで楽しく多文化シミュレーション~

今後の取組

- ①・紙・電子両方の資料の収集や展示を継続。
- ・図書館の多文化サービスの対象となる団体(学校/高知県国際交流協会/中小企業団体中央会)に対して継続的に広報を実施。
- ②・在留外国人向け図書館活用講座を継続。
- ・利用しやすいコーナーづくりや、サービスを知ってもらうためのPR方法を引き続き検討していく。
- ③・各種行事を関係機関と連携して実施予定。
- 6/3 世界の年中行事に関するイベント
- 7/15 シンガポールについての理解講座
- 偶数月「HELLO WORLD 外国語のおはなし会」
- 偶数月「English Nook」
- ・日本語学習に役立つセット資料について、市町村立図書館からの需要に合わせて拡充を図る。
- ④・今年度の講座内で実施したアンケート等を参考に、今後の多文化理解講座の内容を検討する。

主な連携先

高知県国際交流協会 (KIA)、県文化国際課、市総務課、高知県外国人生活相談センター (ココフォーレ)、JICA高知デスク

特記事項など

3-【4】図書館利用に障害のある人へのサービス

概要

- オーテピア高知声と点字の図書館と連携し、図書館利用に障害のある人に配慮したサービスを提供するとともに、サービスの積極的なPRを行います。
- 多様な資料やサービス、コミュニケーション手段により、ユニバーサル・デザインの考えに沿った利用しやすい環境を整えます。

サービス指標	R 4年度 (R5.3/31現在)	R 8年度目標 (見直し前)
	宅配貸出サービスの利用件数	57件
対面音訳サービスの利用件数	1018件	1,200件(780件)

主な取組 (R4.4/1~R5.3/31)

- ①バリアフリー資料の収集・提供**
 - ・ディスレクシアに関する図書や、マンガやイラスト付きでわかりやすい資料の展示を実施。
 - ・バリアフリー対応のDVDリストを新たに作成。大活字本等のブックリスト8種を改訂。
- ②やさしい読み上げサービス 新規**
 - ・知的障害者等を対象に、資料をわかりやすく読み伝えるサービスについて、声と点字の図書館と協議。
- ③イベント**
 - ・聴覚障害者協会と協力して手話で楽しむおはなし会を開催。また、手話付き紙芝居動画を撮影。
 - ・声と点字の図書館と連携して、バリアフリー映画会を開催。関連資料の展示やバリアフリーDVDリストを配布。
- ④サービス対象者への広報**
 - ・一部音声読み上げも可能な電子雑誌閲覧サービス「Kono Libraries」を声と点字の図書館と共同で日本の図書館で初めて正式提供開始。
 - 新規
 - ・当館のSNSや店内電子掲示板でサービスを紹介。
 - ・「オンライン障害基礎講座」(ルミエールサロン主催)にてサービス紹介。
 - ・「SDGs WEEK @イオン」「ふくし総合フェア」「発達障害者就労支援セミナー」「発達障害を知る・理解する-とーくImpression'」において出前図書館を実施。
 - ・手話による利用案内動画を撮影。

成果と課題 (○：成果 ■：課題)

- ①バリアフリー資料の収集・提供**
 - 各展示期間中は、展示本の貸出が多く、追加が必要なほどだった。(ディスレクシア関連本は93冊、マンガやイラスト付きで分かりやすい本は576冊展示)
 - ・各サービス対象者や支援者に関する情報の獲得につなげることができた。
 - ・ディスレクシアについては、障害そのものの理解促進に寄与した。
- ②やさしい読み上げサービス**
 - 実施事例の情報が少ないため、具体的な検討が進んでいない。
- ③イベント**
 - 手話で楽しむおはなし会：参加者延べ44名。手話という言葉の体験を通して、聴覚障害についての理解の促進に寄与した。
 - バリアフリー映画会：参加者51名。障害者の参加もあり、参加者からは「勉強になった」「障害者と一緒に見られる映画があってよかった」等の肯定的な感想が多く聞かれた。
- ④サービス対象者への広報**
 - コロナ禍でも可能な限り外部へ出向き、出前図書館を通してバリアフリー図書や就労支援に役立つ本などを紹介するとともに、図書館のサービスについて説明し、関係機関や支援者に関する情報の獲得に寄与した。
 - 今後も、障害者やその支援者、関係機関等へ情報を届けるため、多様な媒体での広報や訪問など、PR方法を考え、必要な情報を収集していく必要がある。



11/19-12/28展示「マンガやイラスト付きでわかりやすい本集めました」



1/29 手話で楽しむおはなし会



2/18「発達障害を知る・理解する-とーくImpression'」出前図書館

今後の取組

- ① バリアフリー資料の収集、展示を継続。
・ブックリストの作成、更新を継続。
・県障害福祉課との連携展示(9月予定)。
- ② 実施事例の情報収集を継続。
- ③ 手話で楽しむおはなし会(7月・1月予定)
・手話付き紙芝居動画の公開準備
・9/23読書バリアフリー研究会(主催：伊藤忠記念財団)
※声と点字の図書館との共同事業
- ④ 市町村立図書館、特別支援学校等への訪問によるPRを継続。
・手話による利用案内動画と読み聞かせ動画の公開及び広報。

主な連携先

県障害福祉課、高知県療育福祉センター、ルミエールサロン、声と点字の図書館

特記事項など

・高知県読書バリアフリー計画の策定が予定されているため、状況に留意する。

4-【1】市町村立図書館等への支援 (県立図書館機能)

概要

○協力貸出等の物的支援や市町村職員を対象とした研修事業等の人的支援により、県全体の図書館サービスの充実と職員のスキル向上に努めます。
○東部・中部・西部の各ブロックの担当職員を置き、課題解決支援サービスのノウハウを共有するなど、各市町村の状況等に応じた支援を行います。

サービス指標

協力貸出点数

R4年度 (R5.3/31現在)	R8年度目標(見直し前)
36,574点	40,000点(35,000点)

主な取組 (R4.4/1~R5.3/31)

- ①巡回訪問や依頼訪問等による支援**
 - ・課題解決支援サービスに進展が見られる図書館や相談が寄せられている図書館を中心に訪問を行った。
- ②情報提供**
 - ・ブログやメールによる情報提供を行った。
 - ・巡回訪問や研修の機会にサービスを紹介した。
 - ・望ましい情報提供の方法について巡回訪問時に聞き取りを行い、担当者間で情報共有できるように一覧表を作成した。
 - ・「高知県内図書館協力マニュアル」の改定について検討を開始した。
- ③研修の実施**
 - ・市町村立図書館等の職員向けに図書館サービス研修を実施(総合・児童サービス・レファレンス・専門研修・ブロック別研修会等)。
 - ・研修動画を追加作成。訪問時に紹介するなど、遠隔地等の職員の自学自習を促した。
- ④課題解決支援サービス実施への協力**
 - ・各市町村の課題に応じて、情報や資料の提供を行った。
 - 安芸市 バリアフリーサービス、多文化サービスについて説明
 - 宿毛市・土佐市 多文化サービスについて説明
 - 越知町・四万十市 出前図書館実施にあたりサポート
 - ・がんの啓発に関して巡回展示を実施した。
 - ・県生涯学習課に同行して市町村を訪問し、課題の共有を図った。
- ⑤移動図書館による支援**
 - ・利用が見込まれる資料を購入して運行した。

成果と課題 (○：成果 ■：課題)

- ①巡回訪問や依頼訪問等による支援**
 - 課題への対策案やサービスに関連する情報を提供することで、市町村の業務をサポートできた。
 - 課題の状況や訪問予定について適宜情報共有を行い、効果的な訪問につなげた。
- ②情報提供**
 - 情報提供の方法を見直したことで、各館に対して円滑に周知できるようになった。
 - 市町村立図書館向けのサービスについて認知度が少しずつ向上し、セット貸出を利用する図書館が増えた。
 - ブログ等による情報発信を強化する必要がある。
- ③研修の実施**
 - 各研修とも多くの参加者があり、満足度も高かった。また、欠席する場合でも配布資料の送付を申込時から受け付けるようにしたことで、当日参加できない職員に自己研鑽の機会を提供できた。
 - 専門研修では、課題解決支援サービスの企画立案のシミュレーションを行うことで、サービスの実践につながる場を提供できた。
 - 研修内容について、次年度の計画を早めに立て、関係各所と共有する必要がある。
- ④課題解決支援サービス実施への協力**
 - 情報提供を行ったことにより、新たなサービスの開始や啓発展示の実施など、取組の強化につながった。
 - 新館準備中や新館開館後の図書館において持続的なサービスを実現するためには、県生涯学習課と連携を密にし、役割分担を図りながら、市町村の所管部署に働きかける必要がある。
- ⑤移動図書館による支援**
 - 図書館未設置町村を中心に資料提供ができた。
 - 移動図書館について、図書館未設置町村への重点化に向けた方向性の整理を開始した。



図書館サービス研修での前専門企画員による講演

今後の取組

- ① により効果的、効率的な訪問とするため、時期や各館の課題を踏まえた訪問計画を立て、各館の課題や改善点について検討する。
- ② 基本的なサービスについても十分に周知できるよう、「高知県内図書館協力マニュアル」を刷新する。
・県内公共図書館職員向けブログへの記事掲載方針について整理する。
- ③ 市町村立図書館等の職員の状況、オーテピア高知図書館内の研修計画を考慮しながら、短期的・中期的な研修計画を作成する。
・6/19、6/26、7/3ブロック別研修会実施予定。
・5/12、7/18、8/24、9/21サービス研修実施予定。
- ④ 市町村の所管部署への働きかけを強化するため、県生涯学習課と取組方針や情報を頻繁に共有する機会を設ける。
・課題に合わせた情報提供、資料提供を行う。特に、外国人材の確保・活躍に関する分野について資料の充実を図る。
- ⑤ 移動図書館の運行について、各市町村の図書館整備状況等を考慮しながら、図書館未設置町村への重点化を図る。

特記事項など

前専門企画員の退職にあたり、「図書館サービス研修」での講演をライブ配信(3/17開催)

4-【2】高知市全域サービスの拠点 (市民図書館機能)

概要

- オーテピア高知図書館(本館機能)と6つの分館、15の分室、2台の移動図書館が一体となり、高知市内全域で図書館サービスを展開します。
- 児童生徒の主体的、意欲的な学習活動や読書活動を支えられるように、高知市内の小・中学校、義務教育学校、特別支援学校との連携・協力を強化します。

サービス指標

	R4年度 (R5.3/31現在)	R8年度目標 (見直し前)
分館・分室・移動図書館利用者数	288,458人	31万人(28万)
分館・分室・移動図書館貸出点数	1,307,519点	1,363,000点(1,316,000点)
市内小中学校等への団体貸出点数	8,031点	11,200点

主な取組 (R4.4/1~R5.3/31)

- ① 学校図書館との連携**
 - ・学校図書館支援員研修(5/12、10/25:市学校教育課主催)にて講義を実施。
 - ・学校図書館や各学級に対するセット貸出などの団体貸出の実施。
 - ・高知県書店商業組合と共催で児童図書優良図書展示会及び学校図書館支援員・司書教諭向け講演会(7/30~8/2)を開催。市学校教育課と連携して広報を行った。
 - ・**GIGAタブレットを活用して高知県電子図書館に一括登録し、在校期間中の読書環境を整備した。市立学校の教員、児童生徒(約22,500名)が対象。新規**
- ② 分館・分室、移動図書館の活性化**
 - ・**本館職員の訪問やグループウェアの活用により、全館的な情報の共有を図った。新規**
 - ・**7/15と9/16に分館・分室・移動図書館職員向けのオーテピア見学会を実施。新規**
 - ・**分館・分室による取組発表を実施、好事例を共有。新規**
 - ・**2つの分室を抽出し、特色や傾向を把握するための地域カルテを作成。新規**
- ③ 接遇力や利用サービスの向上**
 - ・**R4.4月から、毎月の業務協議研修会にて基本業務研修を新たに実施。研修資料は共有し、レファレンスツールについても整理し共有。新規**
 - ・**実情を把握するため、各館室でのレファレンス数の集計を開始。新規**
 - ・均一なサービスを目指すため、全体の業務マニュアルを改訂中。

成果と課題 (○:成果 ■:課題)

- ① 学校図書館との連携**
 - 学校図書館の利用登録・選定支援コーナーの利用につながっている。
 - **高知県電子図書館への登録により、状況に応じた媒体の選択が可能となり、読書環境の向上につながった。**併せて、**学校図書室にGIGAタブレットが配備され、デジタル環境が改善した。**
 - 図書館支援員だけでなく、**教職員の利用促進を図る取組**が必要。
 - 学校連携の進展は、**校長の理解と教委事務局関係課との情報共有・連絡調整**が重要。
- ② 分館・分室、移動図書館の活性化**
 - 各取組により、細かな**サポート体制を構築することができた。**
 - 訪問時に現状を把握し、提案や助言を行うことで、利用者が使いやすい環境を整えた。
 - 運営上の細かな疑問も気軽に確認できるようになり、全体の業務改善につながった。
 - 分館・分室の相互交流により、良い部分を取り入れるなどの意識の変化や業務改善が行われ、図書館サービスの向上につながっている。
 - 本館の視聴覚資料の出張展示を実施。90点に対して125回以上の貸出あり。また、健康・安心・防災情報サービス分野の資料展示は、月に400冊を超える利用があるなど好評。
 - 貸出利用者等が減少している分館・分室については、引き続き原因を分析し、**それぞれの地域特性に合った対策を検討**していく必要がある。
- ③ 接遇力や利用サービスの向上**
 - 分館・分室の職員の基本業務の習得につながった。また、調査能力の向上に資する環境を構築できた。
 - **分館・分室でのレファレンス件数(R4:所蔵27,050件、事項13,488件)**
 - 分館・分室の職員が使いやすいようにマニュアルの改訂を進め、周知する必要がある。



本館職員による分館・分室訪問



分館・分室による取組発表



潮江分館の取組を参考に設置“コテピア”(秦分室)

今後の取組

- ① 学校図書館支援員研修(5月、10月:市学校教育課主催)で講義を実施。
- ① 学校図書館や各学級へのセット貸出等のほか、**5月から教職員への団体貸出を開始。**
- ① 高知県書店商業組合と共催で児童図書優良図書展示会及び学校図書館支援員・司書教諭向け講演会(7月)を開催。
- ① R5年度以降の新入生についても、高知県電子図書館への登録を継続。
- ② 本館職員の訪問や毎月の業務協議研修会での分館・分室による取組発表を継続して実施。
- ② 特色や傾向を把握するため、各分館・分室のカルテを継続して作成。
- ② 職員間の交流の機会を増やす取組を検討。
- ③ 業務研修の年間計画を策定し、引き続き定例研修を実施。分館・分室にも研修テーマを募る。

特記事項など

- ・GIGAスクール構想推進事業で**5分館にオンライン学習用のwi-fiルータを設置予定(7月)。**
- ・R5年度から**市民図書館の各サービスや係を横断した8名の職員を“市全域サービス活性推進担当”に任命。**活性化のための事業実施に向けた企画調整等を行う。
- ・カルテ作成の流れで、**高知市地域共生社会推進本部防災福祉部会の勉強会で図書館活用講座を実施(5月)**
- ・**R5.1月高知市総合教育会議で行政支援への取組を発表**(出席:市長、副市長、総務部長、教育長、教育委員 ほか)



4-【3】 県立学校図書館等との連携・協力 (県立図書館機能)

概要

- 生徒たちが読書を楽しみ、自ら必要な資料・情報を探し活用して学ぶ力を身につけるための支援を、生徒たちにとって身近な学校図書館と連携・協力して行います。
- カリキュラムや生徒のニーズに対応する資料の収集・提供等により、生徒の学びを支えるとともに、教職員等に対する研修や講座等を実施します。

サービス指標

団体貸出点数

R4年度 (R5.3/31現在)

4,253点

R8年度目標 (見直し前)

10,000点(2,200点)

主な取組 (R4.4/1~R5.3/31)

- ①学校への資料の貸出しやレファレンスへの協力
 - ・高知県教育振興基本計画を踏まえてグローバル教育等の図書セットを新たに作成し提供。研究指定校等を訪問し、図書セットを案内。
 - ・高知東工業高等学校からの依頼を受け、教職員の校内研修用に不登校支援に関するブックリストを作成・提供。併せて、団体貸出を実施。また、各学校とメール等で情報共有し、教職員研修への協力をPR。
 - ・バリアフリー担当や声と点字の図書館と特別支援学校へ訪問し、サービスの説明を実施。
- ②学校や関係機関との連携の実施
 - ・高等学校課等と連携し、パネル展を3件実施。また、高校6校と連携展示を実施。
 - ・高知警察署と共催で就職相談を実施。
 - ・山田高校探究科や高知国際高校から依頼を受け、探究学習発表会に出席。
 - ・高知県電子図書館に探究学習成果物8点を掲載。新規
- ③図書館活用講座等の開催
 - ・探究科を有する学校を中心に、講座実施を提案した。山田高校探究科の生徒に図書館活用講座を実施。
- ④学校司書等の研修への協力
 - ・「R4年度司書教諭及び司書の指導力向上事業に係る研究協議会」(主催：高等学校課・オンライン開催)において、取組の報告やサービスの紹介を実施。

成果と課題 (○：成果 ■：課題)

- ①学校への資料の貸出しやレファレンスへの協力
 - 高校等への貸出点数が前年度同期比で、約1.5倍に増加した。
 - 教職員研修に協力することにより、教職員の資質の向上に寄与した。
 - 研究指定校等であるにもかかわらず、貸出実績のない学校がある。
- ②学校や関係機関との連携の実施
 - 各校の特色ある取組を来館者に提供することができ、学校のPRにつながった。
 - オーテピアの集客力を生かして、高知県警の人材確保の取組に協力できた。複数のマスコミにも取り上げられ、図書館が進路選択の参考となる資料・情報を提供していることをPRできた。
 - 研究の根拠となる資料の探し方等を生徒に提案するなど、最終発表に向けて助言ができた。
 - 高知県電子図書館への登録が大幅に進んだ (R4新規登録15校 6,340人)。
 - 各校の教育課程や地域性等を熟知したうえで働きかけないと、貸出しや連携につながらない。
 - 高知県電子図書館への登録や成果物の掲載について周知が必要である。
- ③図書館活用講座等の開催
 - 図書館での情報の探し方や情報リテラシーに関する理解を広めることができた。また、探究テーマに関連する資料を講座で紹介することにより、学校への貸出しにつながった。
 - 図書館見学の依頼は多いが、図書館活用講座の認知度は低い。
- ④学校司書等の研修への協力
 - オンライン研修の機会を活用し、遠隔地等の学校に対しても情報提供ができた。
 - 研修直後から連携展示の依頼や学校図書館業務に関する相談等が複数寄せられ、学校との連携・協力が進んだ。
 - 学校司書以外の教職員に対して、サービス説明等が十分にできていない。



③図書館活用講座 (8/3山田高校探究科)

今後の取組

- ①・貸出実績がない研究指定校を中心に訪問し、学校の課題・特色に応じたブックリストの提供や貸出を提案する。
 - ・「デジタル」「グリーン」「グローバル」の各分野において、教科教育の内容に沿った資料を重点的に収集し、セット図書として学校へ提供する。
- ②・特色ある学科を有する学校を中心に、連携企画の提案を行い、R5年度の実施を目指す。
 - ・高知県電子図書館への成果物の掲載について、校長会や学校訪問時に説明する。
- ③・山田高校への実践事例を参考に、ブログや県広報紙等を活用し、図書館活用講座をPRする。
 - ・探究学習に役立つ図書館活用講座のプログラム (R5年度実施予定) をティーンズ担当と共に作成するため、学校と打ち合わせを行う。
 - ・各校の学科に合わせたデータベース講習会を企画し、提案する。
- ④・高等学校課等との連携を密にし、教職員への研修等でサービスの説明ができるように働きかける。
 - ・学校図書館と協力し、校内研修会等に資料を貸し出すことで、教職員にサービスを周知する。

特記事項など

商圏分析データベースMieNa学校版のトライアルを、R5年度「高校生ビジネスプラン・グランプリプラン作成講座」に組み込んで実施予定。

4-【4】大学等の教育・研究機関等との連携・協力

概要

○教育・研究機関に対して、当館の有する資料・情報を生かし、ニーズや必要性に応じて活動をサポートします。
 ○多くの人に利用されている当館の強みを生かした、イベント等の共催や、広報活動の支援などにより、相乗的な効果が発揮できるように積極的に連携を進めます。

主な取組 (R4. 4/1~R5. 3/31)

※個別サービスでの取組は各サービスのシート内に掲載

- ① **大学等の教育研究機関への貸出し**
 - ・9月の「がん征圧月間」に合わせて、県内の大学・公共図書館等で巡回展示を実施。図書やパンフレット類を提供した。
- ② **大学等と連携した共催事業の実施**
 - ・土佐リハビリテーションカレッジ等との連携講座や、学生対象の図書館活用講座を実施した。
- ③ **出前図書館等での資料の紹介・提供**
 - ・連携講座の会場で図書館のサービスの説明や資料の貸出しを実施した。
- ④ **アウトリーチ・サービスの実施**
 - ・**高知工専と相互協力協定を締結した。** 新規
 - ・高知工科大と相互協力協定の改定や今後の連携について意見交換を行った。
 - ・高知大や高知工科大の国際交流担当部署へのイベント周知の協力依頼と併せて、今後の連携について意見交換を行った。
- ⑤ **学生ボランティア等との協働**
 - ・**高知学園短期大学幼児保育学科「保育研究会」が11月から活動を開始した。** 新規
 - ・高知県立大学「オーテピアンズ」が読み聞かせ動画の公開、図書展示、当館主催イベントの運営補助等の活動を行った。

成果と課題 (○：成果 ■：課題)

- ① **大学等の教育研究機関への貸出し**
 - 6つの大学・病院図書館から巡回展示への参加があり、協力関係を広げることができた。
- ② **大学等と連携した共催事業の実施**
 - 継続的に連携事業を行うことで、利用者への医療健康情報の提供に貢献した。
 - 図書館活用講座の参加者が、講座受講後に利用カードの登録や電子図書館の利用申請をするなど、その後の利用拡大につなげることができた。
 - 医療系以外の大学等との共催事業が少ない。
- ③ **出前図書館等での資料の紹介・提供**
 - 学生を対象とした図書館活用講座を継続的に実施することができ、取組が定着しつつある。
 - 講座会場での出前図書館の貸出しが少ない。
- ④ **アウトリーチ・サービスの実施**
 - 協定の改定(県立大・高知工科大)や新規締結(高知工専)を進めることで、連携の基盤が整備できた。
 - 大学の専門性を生かした連携のあり方について、踏み込んだ協議を要する。
- ⑤ **学生ボランティア等との協働**
 - 学生の専門知識や企画力を生かして、おはなし会や展示コーナーの飾りつけ、本の修理等を行ってもらい、図書館サービスの充実につなげることができた。
 - ボランティア活動を通じて、保育の現場で役立つスキルを身につける機会を提供できた。
 - 継続的なボランティア活動のためには、身につけたスキルを蓄積し、継承できる仕組みや工夫が必要。



高知学園短期大学「保育研究会」によるおはなし会

今後の取組

- ①参加館のアンケート結果等を参考に、連携事業について内容を検討する。
- ②連携実績がない大学等との連携・協力の方向性等を検討し、アウトリーチによる働きかけを行う。
- ③連携の効果等を分析し、事業及び他大学へのアプローチに生かす。
- ④・各大学図書館を訪問し、各館の取組状況や意向等について情報収集・意見交換を行う。
 ・特に、大学の専門性を生かした新規サービスの創出について、連携の可能性を探る。
- ⑤・毎月一回、保育研究会による定例のボランティア活動を行うほか、引き続き、学生の専門性や企画力を生かした活動を提案する。
 ・当館での広報に加え、外部の広報媒体も活用し、ボランティア活動の認知度を高める。

主な連携先

高知工科大学、高知リハビリテーション専門職大学、土佐リハビリテーションカレッジ、高知大学医学部、高知工業高等専門学校、高知学園短期大学

特記事項など

「漢籍合壁」プロジェクトへの協力(こうちミュージアムネットワークへの橋渡し)

4-【5】中心市街地活性化への寄与・周辺施設との連携

概要

○オーテピア高知図書館の資料・情報、司書の専門性、利便性の高い立地といった資源を活用し、中心市街地の活性化に寄与します。
○文化施設等の周辺施設と連携・協力し、各施設の強みや機能の充実・強化を図り、互いの施設の利用促進や情報発信等につなげます。

主な取組 (R4.4/1~R5.3/31)

- ①個々の商店や商店街全般に役立つ図書等の収集・提供
 - ・商店経営の仕方、商品ディスプレイのノウハウなど、個々の商店や商店街の振興全般に役立つ図書や雑誌等を収集・提供。
- ②観光情報の収集・発信
 - ・よさこい祭りやNHK朝の連続テレビ小説「らんまん」関連等の展示を、関係団体と連携しながら実施。
- ③商店街や日曜日等の情報発信
 - ・市産業政策課と連携し、日曜日PRのためのポスターとパンフレットを1階の来館者の目に触れやすい場所に展示。
- ④商店街との協働
 - ・土曜夜市(7/23)や龍馬生誕祭(11/15)に出店。
 - ・まちゼミ(11/19)に参加。
 - ・商店街とオーテピア5周年事業での連携について協議。
- ⑤図書館サービスのPR
 - ・図書館長などが帯屋町商店街関係者を訪問し、関係の強化を図った。
- ⑥文化施設との連携
 - ・こどもコーナーに「高知県立文学館」「高知まんがBASE」「高知こどもの図書館」の宣伝用ボックスを設置。
 - ・第70回全国博物館大会への参画及び分科会会場・企業ブースの設営・運営。
 - ・お城下文化の日イベント(11/20)に参加。 **新規**

成果と課題 (○：成果 ■：課題)

- ①個々の商店や商店街全般に役立つ図書等の収集・提供
 - 商店街振興に役立つ選書を継続して行ったことで、**経営や販売に関する資料にアクセスしやすい**書架になっている。
 - 継続的にニーズを把握していくため、イベント等の機会をとらえて商店街の方々と交流を続けていく必要がある。
- ②観光情報の収集・発信
 - 連携して展示を行うことで、資料の収集等につながった。特によさこい祭りに関しては写真データをはじめ、よさこい鳴子踊りの作詞・作曲者である武政英策氏に関する資料の情報なども入手できた。
- ③商店街や日曜日等の情報発信
 - 日曜市のポスターやパンフレットを設置することで、**日曜市のPRに寄与するとともに、**関連部署との連携が深まった。
- ④商店街との協働
 - 土曜夜市やまちゼミへの参加により、**商店街の賑わい創出に寄与するとともに、**これまで**来館されていなかった方にもオーテピアのサービスをPRできた。**
- ⑤図書館サービスのPR
 - 帯屋町商店街の関係者と定期的なつながりを持つことで、**図書館そのものをPR**できた。
 - 図書館サービスをPRする方法や時期について検討が必要。
- ⑥文化施設との連携
 - 宣伝用ボックスの設置により、**施設間の回遊に寄与**した。
 - 高知での博物館大会の開催は初。分科会には約80名、企業ブースには16社、ポスターセッションには7社が参加した。
 - お城下文化の日のイベントでは、リサイクル本(1,826冊)、オリジナルボールペン(100本)の配布を行った。博物館大会と併せて実施した貴重資料のパネル展示(11/15~20)には445名が入室した。



第15回まちゼミの様子



博物館大会の様子

今後の取組

- ①商店街の振興を意識した資料の収集・提供を継続。商店街の方々と交流を深め、資料のニーズを把握。
- ②引き続き、展示などを通じて、観光情報を発信していく。
- ③日曜市のポスターとパンフレット等を継続して設置するとともに、関連パンフレットやチラシ等も配布する。
- ④土曜夜市やまちゼミに継続して参加。
- ⑤商店街の方々に向けた図書館サービスPRの実施方法や実施時期について検討。
- ⑥引き続き、文化施設との連携に取り組む。

主な連携先

市文化振興課、市地域活性推進課、協同組合帯屋町筋、高知商工会議所

特記事項など